

影絵劇団かしの樹 プロフィール

「影絵劇団かしの樹」は、児童演劇の総合劇団として1982年に設立され、影絵、芝居、音楽などを中心に子どもたちに向けた作品を創り続けています。

かつて、NHK教育テレビ番組「おとぎのへや」「おはなしのくに」にて上演された他、外務省の後援により、定期的に幾度か海外での公演を行うようになり、現在も文化交流につとめております。名作「おやゆびひめ」の上演については、デンマーク大使館から後援をいただくほどご好評をいただいております。

現在では、日本を代表する影絵劇団のひとつとして、日本全国の幼稚園・保育園、小中学校での芸術鑑賞会として好評をいただき、全国の子どもたちに光と影のファンタジーをお届けしております。

影絵劇の語り手「おはなしおじさん」 鈴木 秀雄

影絵劇団かしの樹の「語り手」は、一人ですべてを表現します。老若男女に始まり、動物、木立のざわめきまで。影絵の世界のすべてを表現できるのです。

「語り手」の言葉は、子どもたちの耳から入り体中をゆさぶります。まるで、言葉に力があるように…それが生の人間の言葉なのです。

「おはなしおじさん」鈴木秀雄について

1971年、劇団民芸入団。滝沢修、奈良岡朋子氏に師事。1983年、影絵劇団かしの樹の語り手として活動開始（現在では、最も長く所属する劇団かしの樹の創設メンバー。作家である前田兼巳の世界を継承する牽引メンバーとして後輩を育成。）パリ、オーストラリアをはじめ世界7ヶ国の海外公演など、世界中で愛され続ける存在として影絵人形劇に息を吹き込んでいる。



略 歴

1982年8月 "影絵劇団かしの樹"設立

1983年5月 学校やホール・劇場を中心に公演活動を開始
以後、国内外問わず親しみやすく楽しめる作品を多数上演。

1987年のインドネシア公演では、1日に12,000人ももの観客を動員して、大変な反響を呼び、また1989年の旧ソ連公演では、モスクワテレビで旧ソ連全土に公演が放映されました。さらに、同じ年の1989年よりNHKテレビに出演が決まり、「おとぎのへや」「おはなしのくに」などの番組上映に関して、お茶の間に夢あふれる物語を提供したことは記憶にある方も多かもしれません。

☆代表的な作品☆

- 『おやゆびひめ』（原作：アンデルセン）
- 『はらぺこブンタ』（原作：武井博）
- 『おかあさんのたんじょうび』（原作：マージョリー＝フラック）
- 『走れメロス』（原作：太宰治）
- 『度十公園林（けんじゅうこうえんりん）』（原作：宮沢賢治）
- 『赤いろうそくとにんぎょ』（原作：小川未明）

影絵劇団
かしの樹